

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200529		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム こもれび (1階)		
所在地	岡山県倉敷市水島北幸町4-5		
自己評価作成日	平成23年6月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしています。入居者様には、家事(掃除・洗濯など)を積極的に手伝ってもらえるように支援しています。食事は、隣接するセンターの厨房より提供してもらっています。が、週に2回はメニューを考えて、ホームにて提供しています。天気の良い日は、外出できるように支援し、散歩や花や野菜の世話をしてもらっています。季節の行事や誕生日会など、毎月1回は行事を企画しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200529&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年7月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

出入りの自由な玄関を抜けると、歌声と笑い声とが、よく磨かれた床を照らす窓からの光と共に聞こえてきた。昨夏の開所からまだ1年に満たないが、ベランダでの野菜作りや事業所報「こもれびだより」の発刊など、新たな試みにも奮闘している。比較的身体の元気な人を2階ユニットへ、そうでない人を1階ユニットへと配置したため、ユニットによって雰囲気は異なるが、本人の気持ちを大切にケアの姿勢ほどの職員にも共通している。2階では、家事の手伝いや趣味の活動など、各利用者が役割を持ち、和気あいあいと過ごし、1階では、安心できるケアにより、穏やかな時を送っている。両ユニットを通じ、夜間も含めておむつ使用者がいないのは特筆すべき点である。法人グループとして、倉敷市の水島・連島地区で総合的な介護サービスを提供しているため、グループホームでの生活が困難になった場合も、法人内のサービスへスムーズに引き継げ、この面でも家族は安心できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、サービスの提供が出来るようにしている。理念の理解が出来ていないこともあるので、再度、確認をしていく。	法人全体として「福祉の心」「サービスの心」という理念はあるが、グループホーム独自の理念はまだない。入社時に理念の研修を受け、職員は「サービス業である」との認識のもと、本人の気持ちを大切にケアを実践している。	グループホーム独自で、わかりやすい理念を作り、さらにケアの向上につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りには、おみこしにきてもらうように声かけをしてお祭り気分を味わって頂いた。散歩に出かけたときは、近所の消防署の方や保育園の園児たちとあいさつ程度であるが、交流している。	近隣中学校の運動会見学、中学生ボランティアの受け入れや、敷地内の同一法人事業所合同で、地域の人々を招いた七夕会などの行事があり、法人全体として、積極的に地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現状や取り組みを報告し、意見を頂き、サービスの質向上に努めている。	事業所の現状報告以外に、退去時のトラブルを防ぐために契約書を再確認したり、避難訓練後の会議では消防署から講評を得たりした。直近の会議では、初めて全家族に声をかけて4名が参加した。	市の職員や利用者家族にもっと参加してもらうには、日時の検討を含め、どうしたらよいかを話し合い、工夫することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことがあれば、連絡をしている。今後は、もっと積極的に報告や相談をしていきたい。	市には、書類の書き方など、主に事務面を随時相談している。地域包括支援センターには事業所報の「こもれびだより」を渡して状況を伝え、センターからは健康診断や研修会の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不必要な身体拘束は行わないようにしている。研修や身体拘束委員会を実施し、職員間で周知徹底している。	玄関は自由に出入りでき、その分、職員は利用者を見守り、安全に配慮している。外に出たい利用者がいれば職員が付き添い、自由な生活を支援している。職員は法人内の特別養護老人ホームからの異動者が多く、そこでも研修を受けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待のないように指導している。職員のストレスにも注意するようになっている。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する、一通りの知識はあるが、職員への研修が不十分であり、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、家族の理解・納得を頂いてから、契約してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見が言えるようにしている。また、国保連への連絡方法を掲示している。寄せられた意見は、真摯に受け止め、対応している。	利用者の日常の様子を伝える「こもれびだより」を家族に毎月郵送している。利用者や家族からの要望は、職員全員が目を通す「連絡ノート」へ赤字で記載し、朝夕の申し送り時に共有する。必要があれば、ミーティングを開催して方向性を決定する。	家族からの要望や意見が少ないので、それらを表明できる場や、気軽に言えるような雰囲気作りに、今以上に取り組むことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にケアカンファレンスを行っている。その場で困っていることやチームで統一すべきことを話し合っている。その結果をふまえてケアの統一と向上に努めている。	ケアカンファレンス時にミーティングを実施して解決策を話し合っている。3ヶ月ごとに職員へアンケートをし、管理者が個別面談を行っている。日々の相談や連絡事項は「連絡ノート」へ黒字で記載し、意見交換や管理者からの指示を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別の面談を行っている。労働条件について要望・不満を聞き、働きやすい職場になるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。事業所内でも、定期的、必要に応じて研修の機会を設けている。チーム全体のボトムアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会に参加し、他事業所との情報交換を行っている。他事業所の見学・運営推進会議にも参加させてもらった。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に要望を確認している。認知症が、重度の場合は意思疎通が困難であり、要望を聞くのが難しい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に困っていること・要望を聞くようにしている。随時、家族との連絡を取りあい、その都度、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用初期は、ホームの生活に慣れてもらうように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なんでも入居者と一緒に行うように指導している。自分ができることは、自分でしてもらい過剰な介護にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加できる行事を企画し、参加してもらえるように声をかけている。日用品などは、事業所で購入するのではなく、可能な限り、持ってきてもらうように連絡し、面会の機会を増やすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や知人が面会に来られる人もいる。今後も、続けてもらえるように声をかけている。	利用者の日用品が切れた場合は、できるだけ家族に持って来てもらう等、面会の回数が増えるように工夫している。買物など外出希望には、できるだけ対応し、難しい時は家族に応援を依頼する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握して、リビングの席に気をつけている。馴染めない入居者もいるので、職員が間に入ったり、1人での空間をすごせるようにしている。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も本人の様子を見に行き、継続した関係性を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ずつの希望を聞き、できる限り意向に添うように支援している。	写経がしたい人には家族に道具を持って来てもらうという具合に個人の意向を実現している。レクリエーション時には全員に声をかけ、希望者のみ参加してもらう。その様子は「興味関心チェックリスト」に付けて、職員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から情報を聞き、今までの生活の把握に努めている。日常的な会話の中からも、本人の生活歴を知ることができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を詳細に記入し、個別の生活状態を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を取り入れ、よりよく暮らせるようなプランを考えるようにしている。日常的に職員間でニーズの把握、情報交換を行い、プランの見直し・改善に努めている。	入居時にまず3週間で経過を観察し、以降は定期的にモニタリングして次の介護計画に活かしている。家族から「足の筋力が低下したので運動させてほしい」と要望が出た時には、医師に相談し、屈伸運動を取り入れて、筋力低下を食い止めた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノートを活用し、情報の共有を図っている。記録は詳細に記入するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できていない。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、町内会などがないため地域との協働は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は月に1回介助している。家族の意向を伝えるときは、一緒に受診してもらっている。	利用者の元々のかかりつけ医の受診に、最低月1回は職員が付き添っている。歯医者の場合は、もっと頻繁になる。本人の状態により、受診できない時は医師に連絡をとり、指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談を行い、受診の指示を受けるようにしている。受診時は、医療面での相談にのってもらい、先生への説明なども協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時にはスムーズに対応できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていない。が、介護・医療の必要性が高まった場合は、法人内の事業所で対応してもらえるように調整している。	法人グループ内に、特別養護老人ホームや病院があり、状態に応じてグループ内で対応できる体制を築いている。入居前に予め、グループホームで看取りはしないことや、対応できる範囲を説明し、利用者、家族の理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的な訓練を行い対応方法を職員に徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火事を起こさないようにしている。防火訓練は、職員と入居者で参加し、避難経路や方法を訓練している。スプリンクラーや防火設備を整えている。	避難訓練などを通じ、職員は災害時に何をすべきかを把握している。緊急連絡網が掲示され、非常通報装置など普段使わないものは図解入りのマニュアルがある。屋内での火気厳禁も徹底されている。なお、事業所の数十メートル先が消防署である。	

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者は、人生の大先輩であることを念頭に置き尊敬の念を持って声かけを行う。個人的なことは、自室で話すような配慮をしている。	利用者の呼び方は必ず苗字に「さん」付けとし、明るく穏やかな声のトーンで話しかけるよう心掛けています。みんな一緒に実施する口腔体操時などは、耳の遠い人向けに大きな文字で記載した紙を提示し、職員が大声を出さなくて済む工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行している中で、本人の思いを表情やしぐさからも取り組めるように支援している。自分の出来ることは自分で決めてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でせかしたり、待ってもらわないように気をつけている。本人の希望を聞き、一日をすごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類が選べる人は、選んでもらっている。女性はスカーフを巻いたり、マネキュアをぬって、おしゃれをしている。男性はひげそりを行い清潔に努めている。散髪は、訪問美容室を手配して、髪型は本人の意向を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的にリビングにて、食事をする。昼食は職員も一緒に会話をしながら食べている。食事の準備は無理のない程度に手伝ってもらっている。食後は、食器洗い・拭きを手伝ってもらう。	野菜の皮むきや食器洗いなど、できる人が職員と一緒に和気あいあいと行っている。嗜好を調査したり、「やわらかごぼう」などの噛みやすい食材を取り入れたりして、食欲が増進するよう研究している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理録に食事量を記入している。個人の好み・習慣(お粥・パン食など)に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあわせた口腔ケアを行っている。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入を行い、個人のパターンを把握するように努めている。個々のレベルに合わせて、見守り・介助を行う。	おむつを使用している人はいない。排泄表に記録し、個人の状態に合わせたトイレ誘導や見守りをしている。夜間はトイレ誘導のために起こすようにしている。失禁の恥ずかしさを汲んで、人によってはパッドや紙パンツを使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理録に排便の有無を記入して、個人のパターンを把握するように努めている。水分補給は、こまめにするように、声かけを行っている。運動やマッサージも行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は日中に行っている。希望される方は、可能な限り対応している。拒否する方は、清拭・着替え・足浴にて対応している。	1日3~4人の入浴スケジュールを組んでいるが、夕方までならば希望に合わせている。ゆず湯やしょうぶ湯で季節感を出し、楽しんでもらうこともある。入浴を拒否する人には足浴に変えたり、声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は、居室やソファで横になり休んでもらっている。必要に応じて、クッションや足枕を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、個人ケース記録の中にとじて、副作用や用法・用量を理解している。服薬確認は、職員2人でおこない、確実に服用できるように指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主的に役割を持って生活できるように支援している。余暇は、本人の希望(塗り絵・編み物・写経など)を取り入れて生活してもらっている。布団干しや掃除なども自分で出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物など、外出できるように支援している。家族の協力を得て、外出される方もいる。ホーム所有の車がないため、制限がある。	天気が良い日の散歩や、週2回ほど、近所のスーパーへ職員の運転する車で行く買物は利用者の楽しみになっている。ベランダでトマトや朝顔を育てるのも外の空気に触れる機会となっている。家族にも買物や外食に連れ出してもらう。	

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の入居者は、少しの金銭を持っている。本人の希望に応じて、買物に行ったり、依頼されたものを買ってきたりする。自分で支払いが出来る方は、自分で払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	節目ごとに絵手紙や年賀状を作成し、家族に送っている。電話は必要に応じてかけたり、かかってきた電話に出てもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は、暖かみのあるものを使用している。冷暖房を完備し、必要に応じて使用している。壁面は、定期的に季節感ある作品を入居者と一緒作り、貼っている。	清掃には特に気を配り、毎日、掃き掃除だけでなく拭き掃除を行っている。整理整頓、窓の開け閉めやエアコンのこまめな調整で、快適ですっきりとした空間が維持されている。テレビは利用者の見たい番組がある時にだけスイッチを入れ、テレビがBGMとならないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを用意している。各自がくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の使い慣れたものを持ち込み自宅と同じ状態で生活している。	カーペットや布団など、各自の生活様式に合わせた部屋になっている。花を栽培したり、備え付けのハンガーフックに服を並べたりと、居室でも思い思いの楽しみが実現できている様子がうかがえる。掃除は部屋ごとの担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の横に名前をつけてわかるようにしている。リビングでの席の配置を決めて、自分の席がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200529		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム こもれび (2階)		
所在地	岡山県倉敷市水島北幸町4-5		
自己評価作成日	平成23年6月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200529&SCD=320&PCD=33
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年7月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念をもとに、サービスの提供が出来るようにしている。理念の理解が出来ていないこともあるので、再度、確認をしていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りには、おみこしにきてもらうように声かけをしてお祭り気分を味わって頂いた。散歩に出かけたときは、近所の消防署の方や保育園の園児たちとあいさつ程度であるが、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現状や取り組みを報告し、意見を頂き、サービスの質向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なことがあれば、連絡をしている。今後は、もっと積極的に報告や相談をしていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不必要な身体拘束は行わないようにしている。研修や身体拘束委員会を実施し、職員間で周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待のないように指導している。職員のストレスにも注意するようにしている。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する、一通りの知識はあるが、職員への研修が不十分であり、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、家族の理解・納得を頂いてから、契約してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見が言えるようにしている。また、国保連への連絡方法を掲示している。寄せられた意見は、真摯に受け止め、対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にケアカンファレンスを行っている。その場で困っていることやチームで統一すべきことを話し合っている。その結果をふまえてケアの統一と向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別の面談を行っている。労働条件について要望・不満を聞き、働きやすい職場になるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。事業所内でも、定期的、必要に応じて研修の機会を設けている。チーム全体のボトムアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会に参加し、他事業所との情報交換を行っている。他事業所の見学・運営推進会議にも参加させてもらった。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接聞き出すことは難しいため、本人の何気なく発した言葉に耳を傾け、安心してもらえるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾けながら関係づくりに努めている。家族の要望により、日々の変ったことなど別冊のノートに書き込みしている入居者もいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、必要としている支援は何かを職員間で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業時、職員と協同で行うように努めている。入居者間でも役割を分担して、得意な作業をこなしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、本人の様子を伝え、家族からも、情報を教えてもらい共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との面会、保証人との外出、外泊の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に注意し、リビングのテーブルに集ってもらい入居者全員が関わりを持てるように配置している。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薫風会のグループ内で多様なサービスを提供できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を一番に考えている。訴えのできない入居者は、日頃の様子観察を充分に行い、潜在的ニーズを導きだせるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活スタイルを把握し、それをできる限り崩さないようにあくまでも、本人本意を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・健康管理録に必要事項を記入し、心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から意向を伝えてもらい、関係者で意見を出し、話し合いを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ここの記録をこまめに行い、連絡ノートの活用などで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かせるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のできる範囲で柔軟に対応できるように努めている。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、町内会などがないため地域との協働は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は月に1回介助している。家族の意向を伝えるときは、一緒に受診してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談を行い、受診の指示を受けるようにしている。受診時は、医療面での相談にのってもらい、先生への説明なども協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時にはスムーズに対応できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていない。が、介護・医療の必要性が高まった場合は、法人内の事業所に対応してもらえるように調整している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的な訓練を行い対応方法を職員に徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火事を起こさないようにしている。防火訓練は、職員と入居者で参加し、避難経路や方法を訓練している。スプリンクラーや防火設備を整えている。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として丁寧な言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知の度合いで難しいこともあるが、できる範囲で入居者が思いを表し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にして、その日どう過ごしたいか希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重している。行事などには、おしゃれをする楽しみを味わえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、毎食リビングで食べることが、習慣になっている。食事制限をしている入居者の理解を得ることが困難である。準備や片付けは、できる限り職員と一緒にやる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、食事時・食間の水分補給を定期的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて、介助している。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に了解をとりながら、個々の能力に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録して、便秘時には腹部マッサージ等を行う。普段から体を動かす習慣ができるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上、曜日と時間は決めているが、入居者の希望があれば随時、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、就寝時間、起床時間等、本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医にたずねたり、薬局の発行している説明書を確認したりしている。血圧の変化、排便の状態を記録し、かかりつけ医に相談し、内服の調整などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた役割を持ってもらう。また、個人の楽しみを理解し気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩にでかけるなどの可能な限りの支援を行っている。また、家族にも協力してもらい、外出できるように支援している。		

グループホームこもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や能力に応じて、お金の所持や使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、随時対応している。電話がかかってきた時は、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、季節ごとに掲示物を変える。音楽をかけるなど、居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と座る位置が決まり、入居者同士で思い思いに過ごせるようになっている。また、自由にソファーに移りくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた使い慣れたものを使ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの現状を把握し、安全かつ可能な限り自立した生活が送れるように努めている。		